

■ 概況

9/1～9/7のNYMEX・WTI先物市場は、81.94～86.88ドルの範囲で推移した。

9月8日は、朝方、世界的な景気後退懸念から1月以来の安値を記録したが、その後は、安値の買い戻しもあり、さらに、プーチン大統領が欧米各国の経済制裁強化に対して石油・天然ガスの供給停止を警告したことから、反発した。なお、先週末の米国内原油在庫は増加だったが、大きな影響はなかった。10月限の終値は前日比1.60ドル高の83.54ドル。

週末9日は、前日のプーチン発言を受けて、欧州連合(EU)側はロシア批判をトーンダウンしたが、引き続き、供給懸念の拡大から、続伸した。10月限の終値は前日比3.25ドル高の86.79ドル。

週明け12日は、ドル高進行が一服し原油先物の割安感が高まるとともに、先週末のロシアをめぐる供給懸念も継続し、3営業日続伸した。最終段階のイラン核合意に関する再交渉を仲介する英仏独が、イランの交渉姿勢に懸念を示したことも、イラン原油輸出再開が遠のいたとして、値上がり要因となった。10月限の終値は前日比0.99ドル高の87.78ドル。

13日は、この日発表の8月の米消費者物価指数(CPI)が前年同期比8.3%と市場予想を上回る水準となり、積極的利上げ継続観測から景気減速懸念が高まり、また、米国株式市場の急落の影響も受け、4営業日ぶりに反落した。ただ、ロシアのEU向けエネルギー供給懸念は根強く、底値は固かった。10月限の終値は前日比0.47ドル安の87.31ドル。

14日は、国際エネルギー機関(IEA)月報が、欧州における天然ガスから石油への需要シフト、産油国の増産の遅れを予

想したため、先行き需給ひっ迫懸念が高まるとともに、米政府は原油価格が80ドルを下回れば、戦略石油備蓄(SPR)の購入を検討するとの報道で、反発した。なお、先週末の米国内原油在庫は増加だったが、大きな影響はなかった。10月限の終値は前日比1.17ドル高の88.48ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(11月渡し)は、9月1日～7日の間、91.90～95.50ドルの範囲で推移した。9月8日89.00ドル、9日89.90ドル、12日92.20ドル、13日93.70ドル、14日92.10ドルで推移した。

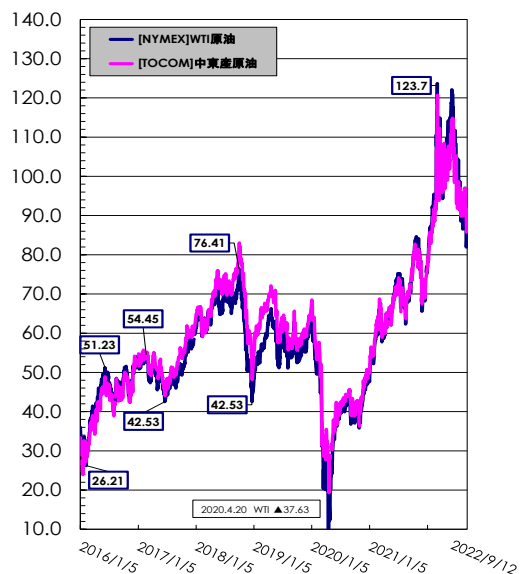
為替は、9月1日～7日の間、139.53～143.12円の範囲で推移した。9月8日144.48円、9日143.81円、12日142.82円、13日142.54円、14日144.49円で推移した。

財務省が9月15日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、8月下旬の原油輸入平均CIF価格は、94,563円で、前旬比126円高、ドル建て111.73ドルで前旬比0.63ドル安、為替レートは1ドル/134.57円。また、8月の月間原油輸入平均CIF価格は、95,608円で、前月比4,059円安、ドル建て112.41ドルで前月比4.07ドル安、為替レートは1ドル/135.22円。

そのような中で、9月12日時点の価格は、ガソリンが前週比0.5円の値上がり、軽油も同0.4円の値上がり、灯油は3円の値上がり(18%ベース)であった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油も2週連続の値上がりであった。ガソリンの全国平均価格は170.1円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、次週の補助金の支給額は35.6円となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/4～9/10	3,172 ▼ -39	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	82.4 ▼ -1.0	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	9/10	9,492 ▼ -538	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	9/12	88.96 ▼ -1.66	▲ 17.8
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	9/12	87.78 ▲ 0.90	▲ 17.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月下旬	111.73 ▼ -0.63	▲ 37.95
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	94,563 ▲ 126	▲ 43,566
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	134.57 ▼ -0.94	▼ -24.68
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/12	143.82 ▼ -2.47	▼ -32.84

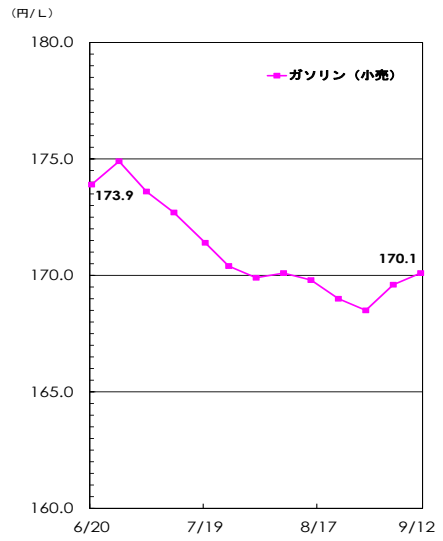
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/4 ~ 9/10	839 ▼ -50	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	738 ▼ -100	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -80	▼ -	
	在庫	9/10	1,594 ▲ 101	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/6 ~ 9/12	77.7 ▼ -1.1	▲ 11.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/6 ~ 9/12	79.0 ▼ -1.0	▲ 14.3
		(TOCOM/中部)	9/12	77.1 ▼ -0.4	▲ 11.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/12	170.1 ▲ 0.5	▲ 11.8	

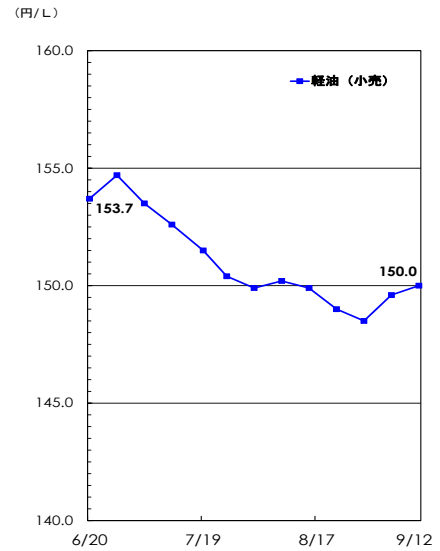
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

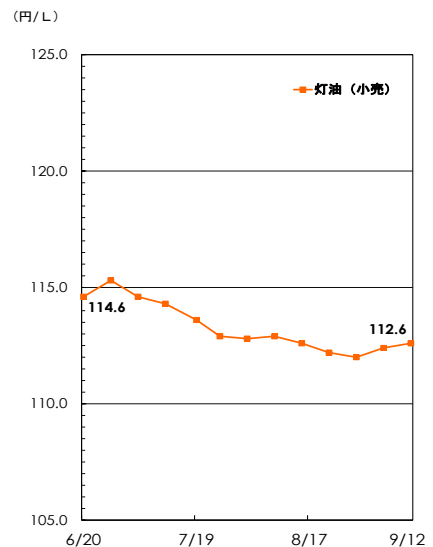
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/4 ~ 9/10	720 ▼ -147	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	598 ▼ -21	▲ -	
	輸出	"	96 ▼ -189	▼ -	
	在庫	9/10	1,466 ▲ 26	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/6 ~ 9/12	77.6 ▲ 0.6	▲ 9.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/6 ~ 9/12	79.9 ▼ -0.4	▲ 12.9
		(TOCOM/中部)	9/12	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/12	150.0 ▲ 0.4	▲ 11.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/4 ~ 9/10	161 ▼ -30	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	57 ▼ -64	▲ -	
	輸出	"	13 ▼ -11	▲ -	
	在庫	9/10	2,041 ▲ 90	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/6 ~ 9/12	78.3 ▲ 1.1	▲ 10.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/6 ~ 9/12	78.3 ▼ -0.4	▲ 14.4
		(TOCOM/中部)	9/12	77.0 ▲ 1.5	▲ 11.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/12	112.6 ▲ 0.2	▲ 14.9	



■ 関連情報

1 海外/原油

今週の石油先物市場は、ロシアの欧州向け石油・天然ガスの供給削減警告、イラン核合意再交渉の難航報道を主な上昇要因、積極的な金利引き上げによる景気減速懸念を低下要因として、WTI終値は9月8日83.54ドルから、14日の88.48ドルと堅調に推移した。

9月8日発表の2日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫情報は、原油在庫が前週比880万バレル増と市場予想(同330万バレル減)に反する積み増し、ガソリン在庫も増加したが、戦略石油備蓄(SPR)の民間放出受入れが原因で、市場には大きな影響はなかった。また、9月13日発表の9日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫情報は、原油在庫が前週比240万バレル減と市

場予想(前週比80万バレル減)を大幅に上回る減少、また、需要期終わりのガソリン在庫は同180万バレル減(市場予想:90万バレル減)、中間留分は420万バレル増(市場予想:60万バレル増)とまちまちの結果で大きな影響はなかった。

EIAによると、9月12日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比5.6セント値下がりの1ガロン3.690ドル(140.0円/ℓ)と13週連続の値下がり、ディーゼルの小売価格は、前週比5.1セント値下がりの1ガロン5.033ドル(191.0円/ℓ)と2週連続の値下がりであった。

ペーカーヒューズ社によると、9月9日時点の米国内稼働石油掘削装置は前週比5基減の591基と2週連続の減少となった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2022年9月4日～9月10日に休止したトッパー能力は3.5万バレル/日で、前週に対して2.1万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は317.2万klと、前週に比べ3.9万kl減少。前年に対しては22.6万klの増加。トッパー稼働率は82.4%と前週に対して1.0ポイントの減少、前年に対しては5.9ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、A重油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/5.6%減、ジェット/8.3%増、灯油/15.9%減、軽油/16.9%減、A重油/4.7%増、C重油/6.0%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比10.1万kl減)。軽油の輸出は9.6万kl(前週比18.9万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェットが増加、その他の油種で減少した。前年比ではA重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は73.8万kl(対前週12.0%減)と2週振りに減少した。ジェット15.1万kl(対前週186.3%増)、灯油5.7万kl(対前週52.6%減)、軽油59.8万kl(対前週3.3%

減)、A重油13.8万kl(対前週29.1%減)、C重油17.3万kl(対前週25.2%減)。

(単位:千kl)

	今週 (9/4 ~ 9/10)	前週 (8/28 ~ 9/3)	前週比
ガソリン	738	838	▼ -100 (-12%)
ジェット燃料	151	53	▲ 98 (185%)
灯油	57	121	▼ -64 (-53%)
軽油	598	619	▼ -21 (-3%)
A重油	138	194	▼ -56 (-29%)
C重油	173	231	▼ -58 (-25%)
合計	1,855	2,056	▼ -201 (-10%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月10日時点の在庫はジェットが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリンが増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは159.4万kl、前週差10.1万kl増。前年に対しては1.6万kl多い。

灯油は204.1万kl、前週差9.0万kl増。前年に対しては20.4万kl少ない。

軽油は146.6万kl、前週差2.6万kl増。前年に対しては1.1万kl少ない。

A重油は71.9万kl、前週差4.0万kl増。前年に対しては3.5万kl少ない。

C重油は179.3万kl、前週差0.8万kl増。前年に対しては17.5万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (9/10)	前週 (9/3)	前週比
ガソリン	1,594	1,493	▲ 101 (7%)
ジェット燃料	811	840	▼ -29 (-3%)
灯油	2,041	1,951	▲ 90 (5%)
軽油	1,466	1,440	▲ 26 (2%)
A重油	719	679	▲ 40 (6%)
C重油	1,793	1,785	▲ 8 (0%)
合計	8,424	8,188	▲ 236 (2.9%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月6日～12日の指標原油価格は前週比で大きく値下がりし、為替レートは円安だったが、元売会社の原油コストは、2.5円値下がりしたものと見られる。

上記コストダウンに先週の補助金額36.5円を加えたコスト上昇額34.0円に、補助金35.6円(計算上36.3円になるが、35円を超える値上がり分は半額補助)が支給されることから、

次週(9/15～9/21)の元売会社の実質的な卸価格は1.6円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

9月6日～12日の製品スポット市況は、8月30日～9月5日平均と比べ、陸上の灯油・軽油の値上りを除いて、他の取引・油種で値下がりした。

直近週(9/6～9/12)の陸上スポット価格平均値は、前週(8/30～9/5)比で、ガソリンは1.1円の値下がり、灯油は1.1円の値上がり、軽油は0.6円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(9/6～9/12)に、前週(8/30～9/5)比で、ガソリンは0.7円の値下がり、灯油は0.9円の値下がり、軽油0.3円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.0円の値下がり、灯油も0.4円の値下がり、軽油は0.4円の値下がりだった。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (9/6～9/12)	前週 (8/30～9/5)	前週比
	レギュラー	77.7	78.8
灯油	78.3	77.2	▲ 1.1
軽油	77.6	77.0	▲ 0.6

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (9/6～9/12)	前週 (8/30～9/5)	前週比
	レギュラー	79.0	80.0
灯油	78.3	78.7	▼ -0.4
軽油	79.9	80.3	▼ -0.4

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/6～9/12実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.1	▼ -1.0	▼ -1.0
灯油	▲ 1.1	▼ -0.4	▲ 0.3
軽油	▲ 0.6	▼ -0.4	▲ 0.1
A重油	▲ 0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

9月12日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円高の170.1円、軽油も同0.4円高の150.0円、灯油は18%ベースで同3円高の2,027円(1%ベースでは同0.2円高の112.6円)。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油も2週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは38都道府県、横ばいは2県、値下がり7県だった。全国最安値は宮城県の162.8円、その次は埼玉県の163.8円であった。他方、最高値は長崎県の182.5円だった。最も値上がりしたのは奈良県(前週比1.5円高)、横ばいは長崎県と高知県、最も値下がりしたのは沖縄県(同1.4円安)だった。

次回調査時(9/20)のガソリンの小売価格は、値下がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (9/12)	前週 (9/5)	前週比	直近高値
レギュラー	170.1	169.6	▲ 0.5	08/8/4 185.1
灯油	112.6	112.4	▲ 0.2	08/8/11 132.1
軽油	150.0	149.6	▲ 0.4	08/8/4 167.4

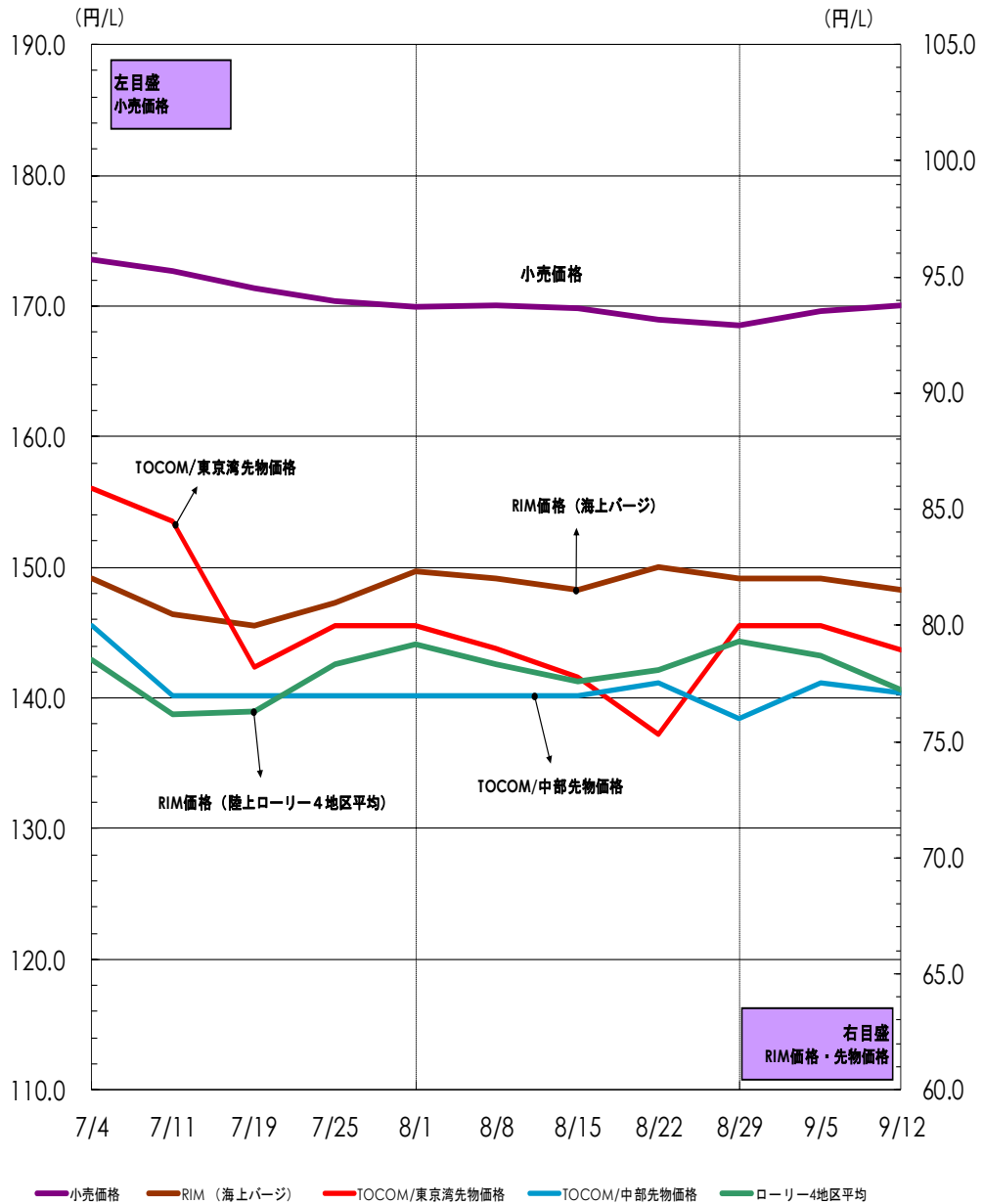
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/7/4 ~ 2022/9/12)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2022第24号)の公表は、9/23(金)14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。